

長崎県の基盤整備事業の効果事例集（その2）

- ①雲仙市：「雲仙ブロッコリー」の導入と氷詰めによる販路拡大・・・P1
【中山間地域における優良事例集（平成28年6月）に掲載】
- ②島原市：雲仙普賢岳の噴火被害から根菜類の一大産地形成・・・P2～P3
【農村振興プロセス事例集（平成28年8月）に掲載】
- ③（②関連資料）農地整備事業（畑地帯担い手育成型）
「三会原地区」の全体効果【参考】・・・P4
- ④諫早市：「いさはやポテト元気くん」の産地強化と低コスト化の推進・・・P5
【高収益な農業に取り組む現場から学ぶ（平成28年12月）に掲載】
- ⑤（④関連資料）市場の端境期を支える長崎の春取りばれいしょ・・・P6
- ⑥H29～H33 長崎県の農地基盤整備（区画整理）事業 予定位置図・・・P7

平成29年7月

長崎県・長崎県土地改良事業団体連合会

【工夫のポイント】

- **氷冷蔵詰出荷**による鮮度保持、共同選別による品質の均一化を実現。他市場の端境期における**高価格の出荷を可能とし**、関西及び中国地方への販路を拡大。
- **下流域が閉鎖性水域**であることから、**生産者全体でエコファーマーを取得し**、環境保全型農業を展開。安全・安心な農産物の供給を通じて、**農産物の付加価値を向上**。

水田の区画整理や畑地かんがいの整備によるコストダウンや高収益作物の導入

区画整理及び畑地かんがい施設の整備により、大型農業機械の導入が可能となり、労力の省力化や生産コストの低減が図られ、収益性の高い作物の導入を実現。



整備後のほ場の状況



散水チューブによる散水状況

基盤整備
(H9年～H21年)

【整備前】

半島地域のため交通の便が悪いえ、**農地は火山灰性土壌のため保水性が低く、かつ小区画・不整形**であり、道路も未整備のため、大型農業機械の導入が困難であった。加えて、畑地かんがい施設も未整備であり、収益性の高い作物の導入が困難となっていた。



整備前のほ場の状況

【取組地域の概要】

- 位置
うんぜんし
長崎県雲仙市（過疎等）



- 傾斜
・約1/20
- 主要作物
・ブロッコリー、ばれいしょ
- 主な支援施策
・県営畑地帯総合整備事業（H9～H21）
・多面的機能支払交付金（実施中）
・強い農業づくり交付金（H22）

生産現場

エコファーマーの取得による「安全・安心」の産地づくり

- **生産者全体でエコファーマーを取得し**、農業に頼らない生産や共同選別体制の構築により「安全・安心」な評価の向上に取り組む。



加工・流通

流通施設での氷詰め出荷を通じた販路の拡大



低温流通施設での氷詰めによるブロッコリーの出荷状況

- 低温流通施設での氷詰めによる**品質（鮮度）を保持した出荷**を通じて、販路を拡大。

担い手

地域の共同活動による営農の下支え



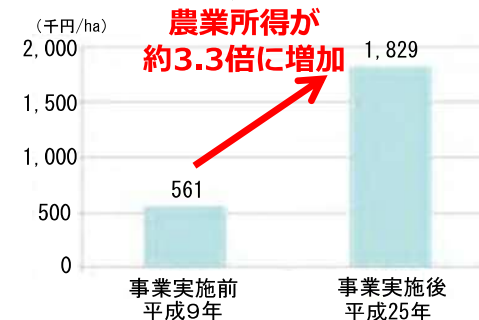
排水路の保全活動状況

- 多面的機能支払に取り組み、地域住民が主体となった共同活動によって営農を下支え。

高収益作物の導入や販路拡大等による1ha当たりの農業所得の向上

- 地域JAによる「雲仙ブロッコリー」の**販売額は平成27年度に6億円を突破**しており、高収益作物の導入や販路拡大を通じて、所得の向上を実現。

山田原地区における農業所得（1ha当たり）の向上



**農業所得が
約3.3倍に増加**

● 農業所得の増(1,268千円/ha)
561千円/ha → 1,829千円/ha

【出典：H26年度 長崎県農村整備課調べ】

- 雲仙普賢岳の噴火による葉菜類への降灰被害を踏まえ、根菜類を中心とした作付体系に重点化し、規模を拡大。
- 昭和40～50年代に整備した畑かん施設の更新整備と併せて区画整理を行い、効率的な営農の基盤を整備。
- 農協を中心として品質向上や安定出荷に取り組み、市場からも評価の高い一大産地を形成。

地区の特徴

平地地域

野菜

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

老朽化した畑地かんがい施設と
不整形なほ場による営農

みえばら

三会原第1地区

【営農規模】49.7ha

【作目】にんじん 22.0ha
だいこん 22.0ha 等

みえばら

三会原第2地区

【営農規模】51.0ha

【作目】にんじん 15.0ha
だいこん 7.8ha
しょうが 2.9ha
レタス 1.8ha 等

- 昭和40年から50年代に整備した畑地かんがい施設が老朽化（負担金の問題から、区画整理は見送り）
- 不整形なほ場、狭小な耕作道
- 平成2年に雲仙普賢岳が噴火して以降、平成8年まで降灰が続き、葉菜類への被害が拡大



降灰の除去

取組内容

全体整備構想の作成

三会原地域全体の基盤整備構想の作成

畑かん施設、区画整理

<完了地区>

県営畑地帯総合整備事業(H14～H25)
三会原第1地区(H14～H19)
三会原第2地区(H20～H25)

<継続地区>

農業競争力強化基盤整備事業(H24～)
三会原第3地区(H24～)
三会原第4地区(H28～)

にんじん収穫機の導入（任意団体、個人）

経営体育成支援事業、県単独事業
その他（H12頃～）

にんじん洗浄選別施設の更新

農山漁村活性化プロジェクト交付金
（H23～24）

- ・処理能力：70トン/日

取組後

効率的な営農による農業所得の向上

みえばら

三会原第1地区

【営農規模】66.7ha

【作目】

にんじん 32.1ha
だいこん 6.5ha
しょうが 5.5ha
はくさい 9.1ha 等

みえばら

三会原第2地区

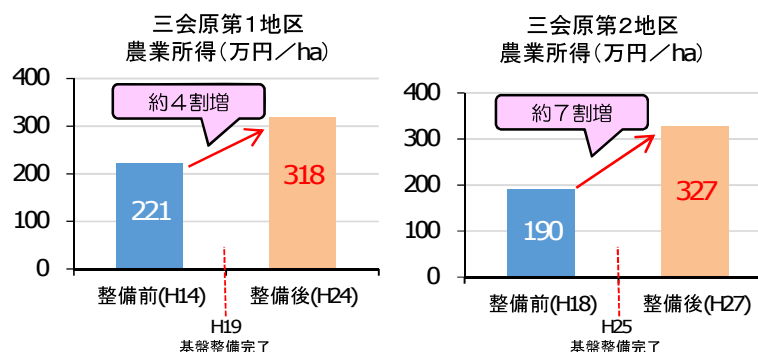
【営農規模】66.0ha

【作目】

にんじん 28.8ha
だいこん 8.9ha
しょうが 5.4ha
レタス 2.6ha 等

【農業所得の向上】

- 耕地利用率の上昇（第1地区：146 → 210%、第2地区：144 → 199%）、生産量の増加等により農業所得が増加



【地域の保育園児の増加】

- 基盤整備によって農業経営の基盤が強化されるようになると、農業後継者に嫁ぐ女性が増加し、園児数が一桁代にまで減少して存続が危ぶまれていた保育所の園児も増加（H28：17名）



島原半島世界ジオパーク

きっかけ

雲仙普賢岳の噴火に伴う降灰が続き
葉菜類の被害が増加
畑かん施設も
老朽化が進行

◆ 誰がどのように・・・？

島原市出荷組合連合会の会長と昭和40～50年代の畑かん整備時に設立した土地改良区の役員が中心となって取組を進めました。

◆ 現地発生の火山岩を再利用して法面を整備

区画整理の際、土壌流失の防止、除草作業の軽減、景観保全を図るため、現地で採取される野面石を再利用した石積により法面を整備しました。

Step 1 (H2)

作付体系の転換

- 噴火被害を踏まえ、耐灰性作物としてにんじん、だいこんなどの根菜類を中心とした作付体系に重点化
- 〔H9以降は降灰が収まりハウスの導入も進んだことから、葉菜類の作付も再開〕

Step 2 (H10～H15)

全体整備構想の作成

- 土地改良区の組合員に対し、基盤整備の事業化に向けた説明会を開催
- 土地改良区が、県・市と共に検討を行い、三会原地域における基盤整備の全体構想を作成

Step 3 (H14～)

基盤整備の実施

- 地域を4地区に分割して区画整理と畑かん更新整備を順次実施
- （畑かん面積）

第1地区	35.5 ha
第2地区	34.4 ha
第3地区	87.8 ha
第4地区	111.9 ha

石積による法面整備



にんじんへの散水

経営体育成支援事業等
を活用し、にんじん
収穫機械を導入



にんじん洗浄選別施設

農山漁村活性化
プロジェクト交
付金を活用

多面的機能支払交付金を
活用し、施設の共同管理
や景観形成活動を実施

◆ 市場の評価を得るために

市場の評価を得るためには、定時・定量・定質の出荷が必要となりますが、にんじん部会役員がリーダーシップを発揮し、部会員全員がその重要性を理解したからこそ、実現することができました。

将来に向けて

- ✓ だいこん、にんじん、はくさい、しょうがのほか、レタス、こまつな等の葉菜類の作付を拡大
- ✓ 今後リタイヤする農業者の農地を担い手へ集積し、担い手農家の経営基盤を一層強化
- ※ H26から農地中間管理事業を活用中

今後の展望

Step 5 (H23～24)

出荷体制の強化

- 生産の拡大に伴い、処理能力の高い洗浄選別施設を整備
- 部会員で播種時期の分散化を図って、冬ににんじんと春夏ににんじんの年間8ヶ月間にわたる定時・定量・定質の出荷に努め、市場で高評価

Step 4 (H19～)

品質向上の推進

- J Aのにんじん部会を挙げて長崎県版GAPに取り組み、農産物の安全性確保に向けた営農を推進
- ほ場ごとの生産管理履歴や防除履歴が確認できるシステムを確立し、販売先へ情報を開示



共同管理活動

地域資源保全

美しい農村

再エネ等

水利施設整備

防災・減災力

農地整備事業（畑地帯担い手育成型）「三会原地区」の全体効果【参考】

県下随一の畑作地帯



< 三会原地区の基盤整備 >

三会原第1	H14～H19	35.5ha
三会原第2	H19～H25	34.4ha
三会原第3	H24～H32	87.8ha
三会原第4	H28～H34	111.9ha
計		269.6ha

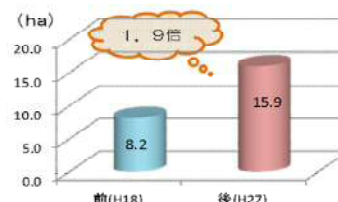


にんじんかん水状況

基盤整備の効果

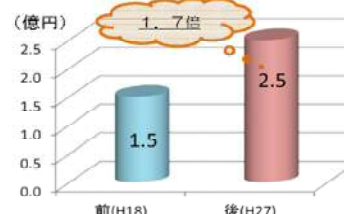
【地区内における担い手の経営規模拡大】 ※三会原第2地区担い手18人

【地区内における担い手経営面積】



全体
 ◆担い手18人の経営面積の増
 33.5ha→43.9ha(10.4ha増)
 ◆担い手1人当たり経営面積
 1.86ha/人→2.44ha/人(0.58ha/人増)
 うち地区内
 ◆担い手18人の経営面積の増
 9.9ha →15.9ha (6.0ha増)
 ◆地区内での担い手経営シェア
 21.7% → 44.5%(22.8%増)

【農業産出額の増加】 ※地区全体



◆農業産出額の増 (1.0億円)
 1.5億円 → 2.5億円
 ※(参考) 4,436千円/ha→7,688千円/ha

【農業所得(千円/ha)の増加】



◆農業所得の増 (6,725千円/人)
 3,032千円/人 → 9,757千円/人

にんじんの産地化

○JA島原雲仙北部地区（島原市）



にんじん洗浄
選別機導入

●産地規模の拡大

栽培面積 153ha(H23)
 ⇒ 174ha(H26) 【14%増】
 出荷量 5,724トン(H23)
 ⇒ 7,445トン(H26) 【30%増】

●担い手の確保

部会員数
 124戸(H23) ⇒ 146戸(H27) 【1.2倍】
 (うち後継者有 71戸)

その他の波及効果

小・中学校生徒数の推移

	H20	H24	H25	H26	H27	H28	H29
県全体	84,919	76,916	75,404	73,932	73,082	72,271	集計中
島原市	2,899	2,508	2,453	2,351	2,340	2,318	2300
三会地区	315	266	261	261	274	265	283

H24を基準年とした増減率



「いさはやポテト元気くん」の産地強化と低コスト化の推進 【長崎県諫早市】

いさはやし

体制・人材
づくり

栽培作物
・方法

加工・出荷

販売

【工夫のポイント】

- 担い手への農地集積や経営規模拡大とともに、農業機械の共同利用など**生産コスト低減の取組**も推進。
- **直売所開設**による**地元特産品の消費拡大の取組**を促進し、来場者数、販売額ともに増加。
- 安定した品質・量の出荷による市場評価の高まりを受け、**関西及び中国地方へも販路を拡大**。

基盤

畑地かんがい施設の整備による 労力の軽減と品質・収量の安定化

畑地かんがい施設の整備や区画整理による農業機械の導入により、かん水等に係る労力の軽減や高収益作物の安定した品質・収量による生産が実現。



整備後のほ場の状況



散水チューブによる散水

基盤整備

(H8年～H23年)

【整備前】

狭小で不整形な畑地が多く、道路も未整備であったため、大型農業機械の導入が困難。また、**用水不足等によって計画的な作付が困難**であり、経営規模拡大の阻害要因となっていた。



整備前のほ場の状況



整備前の営農状況

【取組地域の概要】

- 位置 いさはやし 長崎県諫早市（急傾斜地帯指定）



長崎県

いいもり
飯盛地区

- 整備面積：316ha
- 傾斜：平均9.8%
- 主要作物
 - ・馬鈴薯、人参、大根、カーネーション
- 主な支援施策
 - ・県営畑地帯総合整備事業（H8～H23）
 - ・経営構造対策事業（H17・H18）
 - ・多面的機能支払交付金（H19～）

生産現場

輪作体系の確立による連作障害の軽減

- 畑地かんがい施設の整備により、自由な水利用が可能となったことで、「ばれいしょ」+「にんじん」又は「だいこん」の**輪作体系が実現し、連作障害を軽減**。
- 共同機械利用組合の設立による**大型農業機械の共同利用や遠隔操作によるヘリ防除などの省力化**にも取り組む。

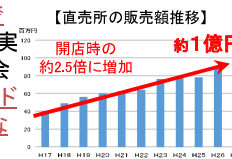


ヘリ防除の取組

加工・流通

直売所を拠点とした消費拡大への取組

- 選果場の整備によって共販による流通・販売体制を構築。ばれいしょの安定出荷の実績により、高い市場評価を獲得。
- 生産者の所得向上を目的に**有志で直売所を開設**。情報発信を通じて確実に販売額を伸ばすとともに、生産部会が「いさはやポテト元気くん」のブランド名で**関西・中国地方を中心とした更なる販路開拓**にも取り組む。



担い手

担い手の育成と経営規模の拡大

- 営農の効率化により、地区内の担い手55戸のうち、30戸で後継者を確保。**整備後（H26：116ha）の担い手による経営面積は、整備前（H8：64ha）と比較して約1.8倍に拡大**。

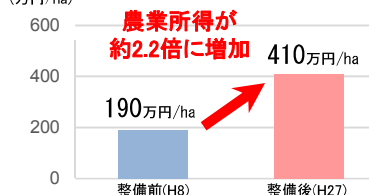
生産体制の構築を通じたブランド販売等による1ha当たりの農業所得の向上

- 担い手による経営規模拡大や**安定した販売体制の構築**に取り組むほか、**直売所を中心とした消費拡大への取組**を通じて、**販売額が増加**（直売所の年間来場者数は10万人を超え、平成27年度の販売額は1億円を突破。）
- また、市場評価の高まりを受けた販路拡大によって春作ばれいしょの販売額が増加。**1ha当たりの農業所得の向上に結びついている**。



地区内で生産された「いさはやポテト元気くん」として主に福岡県、中国地方に出荷され好評です。

飯盛地区における農業所得（1ha当たり）の変化
（万円/ha）



【出典：長崎県農村整備課試算（生産実績をもとに地区内1ha当たりで算出）】

12

市場の端境期を支える長崎の春取りばれいしょ ～ じゃがいも伝来の地から全国へ～

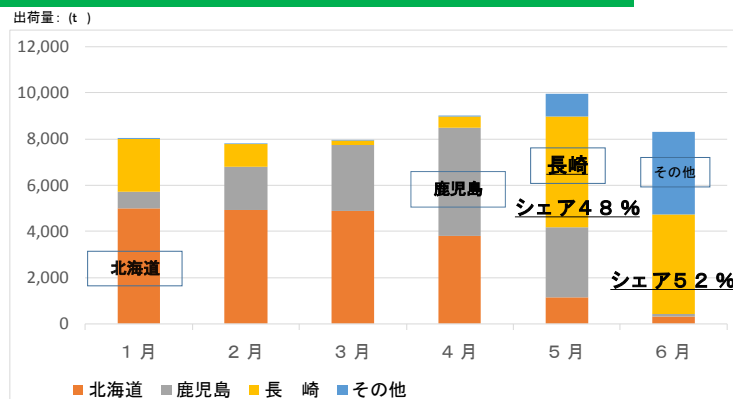
- 本県のばれいしょは、平成27年産作付面積3,810ha、生産量93,000tで、生産量は北海道に次いで全国2位を誇り、農業産出額も128億円と近年増加傾向にあり、本県農業の基幹作物となっています。
- 本県産の春取りばれいしょは、北海道産ばれいしょの出荷が終わる5月に出荷ピークを向かえており、全国のばれいしょ市場の端境期を支え、安定的な食料供給に寄与しています。
- また、本県産ばれいしょは生食向出荷が98%を占めており、加工向出荷が大勢を占める北海道産とは用途別出荷割合が大きく異なっています。



担い手畑総事業・山畑地区（雲仙市）



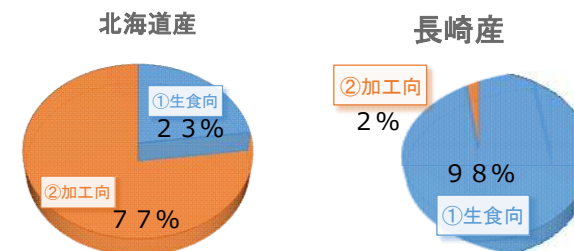
市場における産地別の期別取扱量
(東京都中央市場 H25～H29の5カ年平均)



単位: (t)

産地	1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	5,019	4,949	4,894	3,790	1,120	313
鹿児島	691	1,857	2,856	4,699	3,054	101
長崎	2,318	967	175	480	4,796	4,338
その他	10	14	18	18	1,006	3,561
国内産計	8,037	7,787	7,942	8,987	9,977	8,312

27年産 産地別の用途別出荷割合



本県のばれいしょの特徴



長崎のじゃがいもは炭水化物が少ないので、栄養分は豊かでも低カロリーヘルシー食材で、現代生活にマッチしています。

特に、「春じゃがいも（新じゃが）」は食味に、食感ともに最高です。

H29～H33 長崎県の農地基盤整備(区画整理)事業

予 positioning 図

